

福岡市公報 第7207号（別冊）

令和7年度 上半期

業務状況の説明

（公営企業会計）

地方自治法第233条第6項の規定により本市モーターボート競走事業の令和6年度決算の要領を、福岡市モーターボート競走事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和7年度上半期（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和8年1月29日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市モーターボート競走事業の令和6年度決算の要領及び
令和7年度上半期の業務状況

(第19回公表)

目 次

	ページ
1 令和6年度決算の要領	1
(1) 決算の概要	1
(2) 業務量	2
(3) 損益計算書	2
(4) 貸借対照表	2
2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）	3
(1) 概況	3
(2) 事業報告書	3
(3) 損益計算書	4
(4) 貸借対照表	4
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	4

1 令和6年度決算の要領

(1) 決算の概要

本市のモーターボート競走事業は、昭和28年9月26日の初開催以来、これまでに約3,032億円（令和6年度末）を一般会計へ繰り出し、教育、子ども、社会福祉などの本市施策への貴重な財源となり、市民生活の質の向上に大きな役割を果たしてきました。

令和6年度の売上につきましては、653億8,005万円で、前年度と比べ、51億8,870万円、7.4パーセント減少しております。

経営状況は、総収益698億1,735万円に対し、総費用651億6,422万円となり、差引46億5,313万円の純利益が生まれました。

この結果、令和5年度からの繰越利益剰余金に当年度純利益を合わせた、169億3,964万円のうち、45億7,000万円を一般会計への繰出金、30億円を建設改良積立金として利益処分し、残りの93億6,964万円は未処分利益剰余金となっております。

今後とも売上の向上を目指すとともに、なお一層の経営の効率化と健全化に努め、一般会計への繰出金を通じて、本市まちづくりへ貢献するという使命を果たしてまいります。

(2) 業務量

区 分	単位	令和6年度	令和5年度	差引増減
開 催 日 数	日	168	168	-
勝舟投票券売上高	千円	65,380,046	70,568,750	△ 5,188,704
1日平均売上高	千円	389,167	420,052	△ 30,885
開催事務受託売上金額	千円	5,794,949	5,527,839	267,110
場間場外発売事務受託売上金額	千円	14,598,050	14,448,165	149,885

(3) 損益計算書 (令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	69,817,354
営 業 収 益	69,769,473
営 業 外 収 益	47,881
総 費 用 (B)	65,164,222
営 業 費 用	64,291,591
営 業 外 費 用	872,631
差引損益(A) - (B)	4,653,132

(4) 貸借対照表 (令和7年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	23,067,728	固定負債	355,767
流動資産	23,503,966	流動負債	1,704,531
		繰延収益	323,968
		資 本 金	27,247,786
		剰 余 金	16,939,642
計	46,571,694	計	46,571,694

2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

(1) 概況

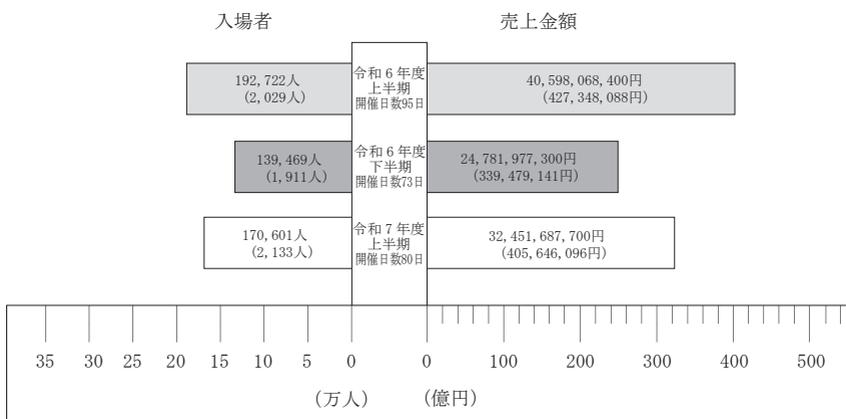
令和7年度上半期の開催日数は80日（前年度同期比15日減）、入場者数は170,601人（1日平均 2,133人）で、前年度同期と比べ11.5パーセントの減（1日平均 5.1パーセントの増）となっております。

売上金額は、32,451,687,700円（1日平均 405,646,096円）で、前年度同期と比べ20.1パーセントの減（1日平均 5.1パーセントの減）となっております。

また、場間場外発売については、場内売上が848,168,400円、外向発売所（ペラボート福岡）売上が6,115,314,800円、合計 6,963,483,200円で、前年度同期と比べ3.1パーセントの減となっております。

(2) 事業報告書

入場者及び売上金額（ ）は1日平均



(3) 損益計算書（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益（A）	33,663,572
営 業 収 益	33,615,717
営 業 外 収 益	47,855
総 費 用（B）	29,780,789
営 業 費 用	29,780,789
営 業 外 費 用	-
差引損益(A)－(B)	3,882,783

(4) 貸借対照表（令和7年9月30日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	23,117,147	固定負債	355,767
流動資産	26,193,077	流動負債	560,279
		繰延収益	323,968
		資本金	27,247,785
		剰余金	20,822,425
計	49,310,224	計	49,310,224

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和7年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

なし

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により本市集落排水事業の令和6年度決算の要領を、福岡市集落排水事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和7年度上半期（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和8年1月29日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市集落排水事業の令和6年度決算の要領及び
令和7年度上半期の業務状況
(第3回公表)
目 次

	ページ
1 令和6年度決算の要領	5
(1) 決算の概要	5
(2) 業務量	6
(3) 損益計算書	6
(4) 貸借対照表	6
2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）	7
(1) 概況	7
(2) 事業報告書	7
(3) 損益計算書	8
(4) 貸借対照表	8
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	8

1 令和6年度決算の要領

(1) 決算の概要

集落排水事業は、農業集落や漁業集落において、生活環境の改善や公共用水域の水質保全を目的として、し尿や生活雑排水等の汚水処理を行う事業です。

本市では、昭和60年度に最初の集落排水処理施設を供用開始し、現在は市内8カ所で汚水処理を行っています。

令和6年度においては、公営企業会計へ移行した最初の年度であり、経営状況や財政状況の把握に努め、効率的で持続可能な経営を行いました。

また、施設の維持管理面では、処理施設やポンプ施設の適切な運転管理、管渠の計画的な調査を実施し、業務の効率化と充実を図るとともに、老朽化した機器の更新等を実施し、各施設が十分に機能するよう取り組みました。

(2) 業務量

区 分	単位	令和 6 年度	令和 5 年度	差引増減
行政区域人口	千人	1,660	1,646	14
処理区域内人口	千人	3	3	0
人口普及率	%	0.2	0.2	0.0
年間処理水量	千m ³	325.5	332.4	△ 6.9
処理区域面積	ha	105	105	-

(3) 損益計算書 (令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	482,867
営業収益	257,579
営業外収益	225,288
特別利益	0
総 費 用 (B)	482,867
営業費用	387,206
営業外費用	23,270
特別損失	72,391
差引損益(A) - (B)	0

(4) 貸借対照表 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,694,210	固定負債	485,998
流動資産	143,292	流動負債	219,130
		繰延収益	1,718,547
		資本金	1,413,827
		剰余金	0
計	3,837,502	計	3,837,502

2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

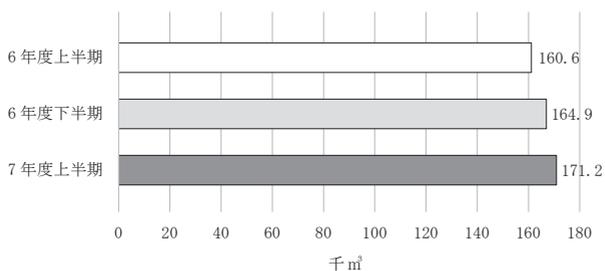
(1) 概況

令和7年度上半期におきましても、適切な運転管理の他、各施設が十分に機能するよう老朽化の進んだ機器を更新する等の管理・運営を行いました。

今後も、利用される方の生活環境や公共水域の水質保全に寄与するべく、適切に事業運営を行ってまいります。

(2) 事業報告書

処理水量



(3) 損益計算書（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益（A）	286,418
営 業 収 益	159,783
営 業 外 収 益	126,633
特 別 利 益	2
総 費 用（B）	71,012
営 業 費 用	66,675
営 業 外 費 用	4,337
特 別 損 失	0
差引損益(A)－(B)	215,406

(4) 貸借対照表（令和7年9月30日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,696,325	固定負債	485,998
流動資産	257,441	流動負債	79,276
		繰延収益	1,718,547
		資本金	1,454,539
		剰余金	215,406
計	3,953,766	計	3,953,766

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和7年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

（単位：百万円）

令和6年度末 現 在 高	令和7年度上半期		令和7年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
573	－	77	496

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により本市下水道事業の令和6年度決算の要領を、福岡市下水道事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和7年度上半期（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和8年1月29日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市下水道事業の令和6年度決算の要領及び
令和7年度上半期の業務状況
(第79回公表)
目 次

	ページ
1 令和6年度決算の要領	9
(1) 決算の概要	9
(2) 業務量	10
(3) 損益計算書	10
(4) 貸借対照表	10
2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）	11
(1) 概況	11
(2) 事業報告書	11
(3) 損益計算書	12
(4) 貸借対照表	12
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	12

1 令和6年度決算の要領

(1) 決算の概要

下水道は、生活環境改善及び浸水の防除のための基幹施設であるとともに、海・河川等の公共用水域の水質保全のための重要な施設です。

本市は、下水道の緊急かつ計画的な整備を推進するため、第1次下水道整備五箇年計画を策定した昭和38年に、本格的に事業着手して以来、積極的に整備を進めてきた結果、令和6年度末の人口普及率は99.7パーセントとなっています。

令和6年度の主な施策としては、安全安心な市民生活や下水道機能を確保するため、老朽化施設の改築更新を最重点で取り組みました。

また、災害に強い下水道を目指し、重点地区を定めた「雨水整備Dプラン2026」や天神周辺地区の雨水対策を強化した「雨水整備レインボープラン天神」第2期事業等の浸水対策を推進するとともに、下水道施設の耐震化に取り組みました。

このほか、未整備区域の解消や合流式下水道の改善に取り組みました。

また、資源の有効利用を図るため、再生水利用下水道事業を推進しました。

施設の維持管理面では、処理施設・ポンプ施設の適切な運転管理と、管渠等の計画的な調査及びそれに基づく清掃・補修を実施し、維持管理業務の効率化とその充実を図りました。

(2) 業務量

区 分	単位	令和 6 年度	令和 5 年度	差引増減
処 理 区 域 内 人 口	千人	1,656	1,641	15
人 口 普 及 率	%	99.7	99.7	0.0
年 間 処 理 水 量	千m ³	186,112	187,505	△ 1,393
処 理 区 域 面 積	ha	17,201	17,200	1

※年間処理水量は、本市単独の処理場に係る分で、流域関連公共下水道分を除く。

(3) 損益計算書（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額	備 考
総 収 益	54,900,826	
営 業 収 益	45,071,383	
営 業 外 収 益	9,763,737	他会計負担金 100,621
特 別 利 益	65,706	
総 費 用	47,890,641	
営 業 費 用	44,146,579	
営 業 外 費 用	3,719,151	
特 別 損 失	24,911	
差 引 純 利 益	7,010,185	

(4) 貸借対照表（令和 7 年 3 月 31 日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	756,430,922	固定負債	286,311,340
流動資産	31,579,704	流動負債	34,894,212
		繰延収益	209,707,110
		資本金	174,879,855
		剰余金	82,218,109
計	788,010,626	計	788,010,626

2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

(1) 概況

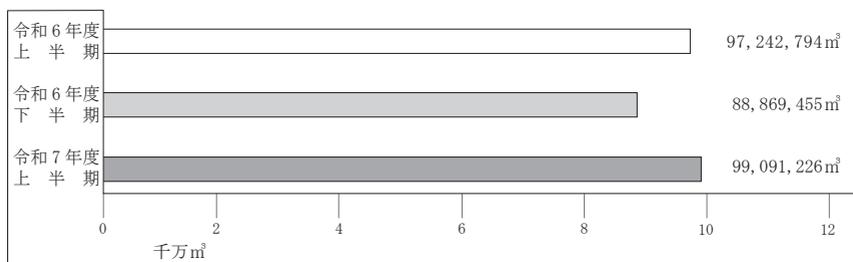
老朽化した施設の改築更新を最重点として事業を実施し、また、重点地区を定め雨水対策を行う「雨水整備Dプラン2026」及び雨水対策を強化した「雨水整備レインプラン天神」に基づく施設整備や、下水道施設の耐震化を進めてまいりました。

また、公共用水域の水質保全のため、合流式下水道の改善などを進めるとともに、下水道資源の有効利用や再生水利用下水道事業を推進してまいりました。

今後とも、市民の皆様が下水道サービスを安定的・継続的に利用でき、快適で安心して暮らせますよう、適正かつ効率的な事業運営に取り組んでまいります。

(2) 事業報告書

処理水量



※場内循環水を含む。

(3) 損益計算書（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益（A）	27,771,655
営 業 収 益	22,916,036
営 業 外 収 益	4,839,283
特 別 利 益	16,336
総 費 用（B）	22,041,239
営 業 費 用	20,358,617
営 業 外 費 用	1,655,171
特 別 損 失	27,451
差引損益(A)－(B)	5,730,416

(4) 貸借対照表（令和7年9月30日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	751,616,003	固定負債	286,311,340
流動資産	20,123,051	流動負債	15,440,188
		繰延収益	207,146,895
		資本金	174,879,855
		剰余金	87,960,776
計	771,739,054	計	771,739,054

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和7年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

（単位：百万円）

令和6年度末 現 在 高	令和7年度上半期		令和7年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
305,638	-	7,822	297,816

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により、本市水道事業の令和6年度決算の要領を、福岡市水道事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和7年度上半期（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和8年1月29日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市水道事業の令和6年度決算の要領及び
令和7年度上半期の業務状況
(第146回公表)
目 次

	ページ
1 令和6年度決算の要領	13
(1) 決算の概要	13
(2) 業務量	14
(3) 損益計算書	14
(4) 貸借対照表	14
2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）	15
(1) 概況	15
(2) 事業報告書	15
(3) 損益計算書	16
(4) 貸借対照表	16
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	16

1 令和6年度決算の要領

(1) 決算の概要

令和6年度は、水道事業の基本計画として策定した「福岡市水道長期ビジョン2028」及びその第2次実施計画として策定した「第2次福岡市水道中期経営計画」の4年目として、これらの計画に基づく各施策を着実に推進してまいりました。

財政状況は、総収益375億8,644万円に対し、総費用は311億3,531万円で、差引64億5,113万円の純利益が生じました。

この結果、当年度の未処分利益剰余金は、減債積立金の取崩しに伴い発生する、その他未処分利益剰余金変動額34億6,448万円を含め、99億1,560万円となっております。

また、令和6年度末の企業債残高は1,042億8,083万円で、前年度末から3億3,611万円減少しており、着実に減少してはおりますが、将来にわたり安定経営を持続していくため、更なる経営の効率化を行い、利益を確保することで新たな企業債の借入を抑制するよう努めてまいります。

今後とも、長期ビジョンの基本理念である「みなさまから信頼される水道」の実現に向け、各施策を着実に実施してまいります。

(2) 業務量

区 分	単位	令和 6 年度	令和 5 年度	差引増減
給 水 戸 数	戸	972,118	958,017	14,101
年 間 総 給 水 量	m ³	156,376,749	154,460,569	1,916,180
1 日 最 大 給 水 量	m ³	466,151	458,533	7,618
1 日 平 均 給 水 量	m ³	428,429	422,023	6,406
年 間 有 収 水 量	m ³	150,173,250	148,236,439	1,936,811
有 収 率	%	96.0	96.0	0.0

(3) 損益計算書（令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで）

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	37,586,436
営 業 収 益	32,927,155
営 業 外 収 益	4,635,321
特 別 利 益	23,960
総 費 用 (B)	31,135,310
営 業 費 用	29,770,380
営 業 外 費 用	1,337,425
特 別 損 失	27,505
差引損益(A)－(B)	6,451,126

(4) 貸借対照表（令和 7 年 3 月 31 日現在）

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	388,164,836	固定負債	101,674,843
流動資産	26,877,559	流動負債	19,332,445
		繰延収益	62,039,737
		資本金	219,457,541
		剰余金	12,537,829
計	415,042,395	計	415,042,395

2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

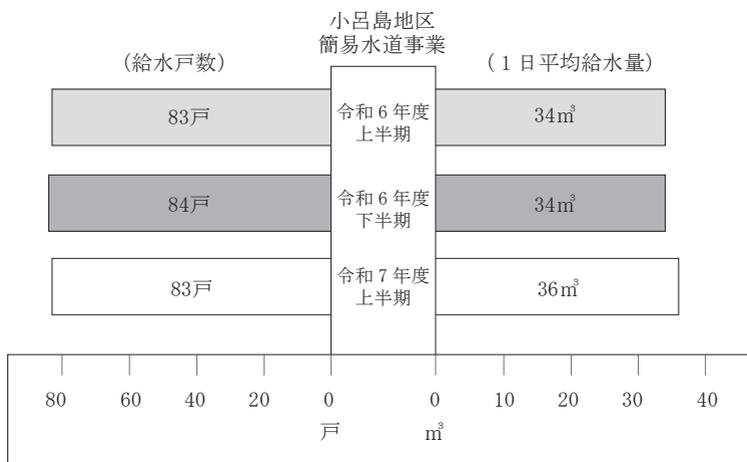
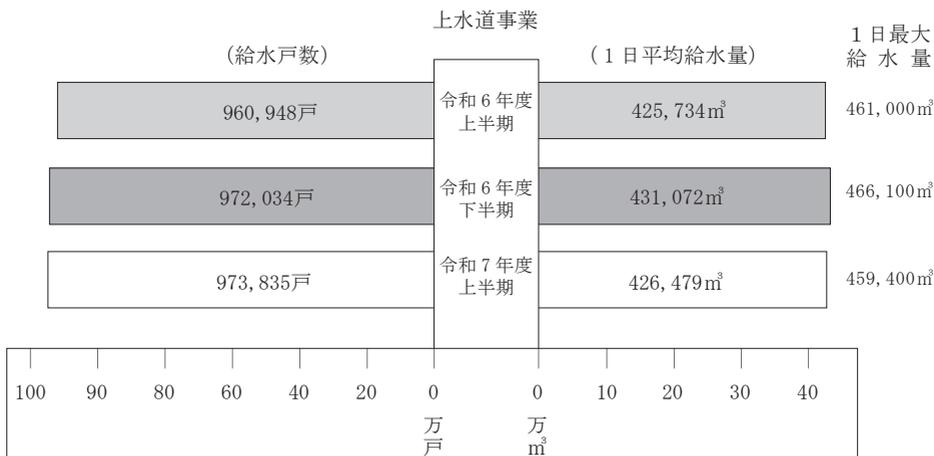
(1) 概況

令和7年度上半期においては、「福岡市水道長期ビジョン2028」に基づく水の安定供給に向けた計画的な施設整備等の各施策を着実に推進してまいりました。

今後も、長期ビジョンの基本理念である「みなさまから信頼される水道」の実現に向け、各施策を実施していくとともに、事業の運営についても効率的な執行を図り、財政の健全化に努めてまいります。

(2) 事業報告書

給水状況



(3) 損益計算書 (令和7年4月1日から令和7年9月30日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	18,848,614
営 業 収 益	16,551,591
営 業 外 収 益	2,287,167
特 別 利 益	9,856
総 費 用 (B)	14,290,080
営 業 費 用	13,598,582
営 業 外 費 用	654,941
特 別 損 失	36,557
差引損益(A)－(B)	4,558,534

(4) 貸借対照表 (令和7年9月30日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	387,247,291	固定負債	101,765,666
流動資産	21,355,674	流動負債	8,767,982
		繰延収益	61,341,652
		資本金	219,631,302
		剰余金	17,096,363
計	408,602,965	計	408,602,965

(5) 企業債及び一時借入金の現在高 (令和7年9月30日現在)

ア 企業債の現在高

(単位：百万円)

令和6年度末 現 在 高	令和7年度上半期		令和7年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
104,281	－	3,681	100,600

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により、本市工業用水道事業の令和6年度決算の要領を、福岡市水道事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和7年度上半期（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和8年1月29日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市工業用水道事業の令和6年度決算の要領及び
令和7年度上半期の業務状況
(第121回公表)
目 次

	ページ
1 令和6年度決算の要領	17
(1) 決算の概要	17
(2) 業務量	18
(3) 損益計算書	18
(4) 貸借対照表	18
2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）	19
(1) 概況	19
(2) 事業報告書	19
(3) 損益計算書	19
(4) 貸借対照表	20
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	20

1 令和6年度決算の要領

(1) 決算の概要

令和6年度は、工業用水道事業の基本計画として策定した「福岡市工業用水道長期ビジョン2028」及びその第2次実施計画として策定した「第2次福岡市工業用水道中期経営計画」の4年目として、これらの計画に基づく各施策を着実に実施してまいりました。

財政状況は、総収益2億2,481万円に対し、総費用は2億4,732万円となり、差引2,251万円の純損失を生じました。

この結果、当年度の未処分利益剰余金は、4億5,158万円となっております。

また、令和6年度末の企業債残高は29億1,784万円で、前年度末から3億1,824万円増加しております。

今後も長期ビジョンの基本理念である「産業と暮らしを支える工業用水道を次世代へ」健全な形で確実に引き継いでいけるよう、各施策を着実に実施してまいります。

(2) 業務量

区 分	単位	令和6年度	令和5年度	差引増減
給水事業所数	事業所	30	30	-
一日平均契約水量	m ³	8,330	7,876	454
年間料金水量	m ³	3,118,984	2,937,604	181,380

(3) 損益計算書 (令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	224,807
営 業 収 益	212,850
営 業 外 収 益	11,957
総 費 用 (B)	247,316
営 業 費 用	233,250
営 業 外 費 用	14,066
差引損益(A)－(B)	△ 22,509

(4) 貸借対照表 (令和7年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,657,911	固定負債	2,885,280
流動資産	955,021	流動負債	347,355
		繰延収益	340,313
		資本金	588,407
		剰余金	451,577
計	4,612,932	計	4,612,932

2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

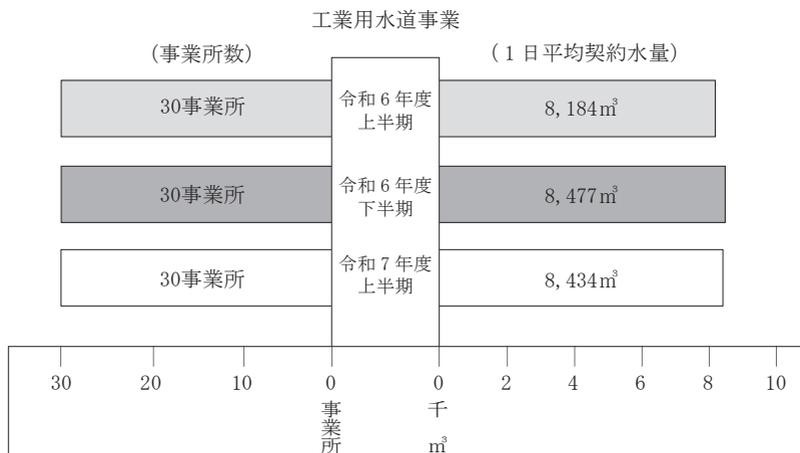
(1) 概況

令和7年度上半期の給水事業所数は30事業所（9月30日現在）で、1日平均契約水量は8,434立方メートルとなっております。

今後とも、事業の効率的な運営に努めてまいります。

(2) 事業報告書

給水状況



(3) 損益計算書（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益 (A)	114,771
営 業 収 益	108,770
営 業 外 収 益	6,001
総 費 用 (B)	122,065
営 業 費 用	112,949
営 業 外 費 用	9,116
差引損益(A)－(B)	△ 7,294

(4) 貸借対照表（令和7年9月30日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	3,665,191	固定負債	2,885,280
流動資産	638,879	流動負債	51,756
		繰延収益	334,344
		資本金	588,407
		剰余金	444,283
計	4,304,070	計	4,304,070

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和7年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

（単位：百万円）

令和6年度末 現在高	令和7年度上半期		令和7年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
2,918	—	16	2,902

イ 一時借入金の現在高

なし

地方自治法第233条第6項の規定により本市高速鉄道事業の令和6年度決算の要領を、福岡市交通事業の設置等に関する条例第8条第4項の規定により同事業の令和7年度上半期（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）における業務状況を、次のように公表する。

令和8年1月29日

福岡市長 高 島 宗 一 郎

福岡市高速鉄道事業の令和6年度決算の要領及び
令和7年度上半期の業務状況
(第103回公表)
目 次

	ページ
1 令和6年度決算の要領	21
(1) 決算の概要	21
(2) 業務量	22
(3) 損益計算書	22
(4) 貸借対照表	22
2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）	23
(1) 概況	23
(2) 事業報告書	23
(3) 損益計算書	24
(4) 貸借対照表	24
(5) 企業債及び一時借入金の現在高	24

1 令和6年度決算の要領

(1) 決算の概要

本市の高速鉄道事業は、昭和56年7月26日に空港線（1号線）室見～天神間で営業を開始して以来、順次部分開業を続け、平成5年3月3日の空港線博多～福岡空港間の開業により、空港線と箱崎線（2号線）の全区間が開業しました。また、西南部地域における基幹交通機関として七隈線（3号線）橋本～天神南間が平成17年2月3日に開業、令和5年3月27日には天神南～博多間が開業し、空港線、箱崎線と七隈線を合わせて31.4kmで営業しております。

令和6年度の輸送人員及び乗車料収入につきましては、年間輸送人員191,340,519人（1日平均524,221人）、乗車料収入（消費税及び地方消費税を除く。）338億5,996万円で、前年度に比べて、それぞれ14,914,837人（8.5%）、25億6,391万円（8.2%）の増となっております。

経営状況につきましては、総収益411億7,730万円に対し、総費用は318億6,080万円で、差引93億1,650万円の純利益が生じております。

本年度末における累積欠損金につきましては、910億4,109万円となっております。

今後とも「福岡市地下鉄長期ビジョン」に定めた経営理念のもと、安全・安心を最優先に、計画的かつ効率的な投資や増収対策に取り組んでまいります。

(2) 業務量

区 分		単位	令和6年度	令和5年度	差引増減	
営業キロ		km	31.4	31.4	0	
在籍車両数		両	234	228	6	
輸 送 人 員	年 間	定 期	人	89,094,060	82,336,320	6,757,740
		定期外	人	102,246,459	94,089,362	8,157,097
		計	人	191,340,519	176,425,682	14,914,837
	1日平均	定 期	人	244,094	224,962	19,132
		定期外	人	280,127	257,075	23,052
		計	人	524,221	482,037	42,184
乗 車 料 収 入	年 間	定 期	円	11,563,733,984	10,716,379,241	847,354,743
		定期外	円	22,296,230,624	20,579,670,750	1,716,559,874
		計	円	33,859,964,608	31,296,049,991	2,563,914,617
	1日平均	定 期	円	31,681,463	29,279,725	2,401,738
		定期外	円	61,085,563	56,228,608	4,856,955
		計	円	92,767,026	85,508,333	7,258,693

(注) 乗車料収入は、消費税及び地方消費税を除く。

(3) 損益計算書 (令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位：千円)

区 分	金 額
総 収 益 (A)	41,177,293
営 業 収 益	36,065,496
営 業 外 収 益	4,823,340
特 別 利 益	288,457
総 費 用 (B)	31,860,798
営 業 費 用	29,972,713
営 業 外 費 用	1,886,059
特 別 損 失	2,026
差引損益(A)－(B)	9,316,495

(4) 貸借対照表 (令和7年3月31日現在)

(単位：千円)

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	348,418,860	固定負債	178,962,439
流動資産	27,135,332	流動負債	39,636,243
		繰延収益	95,562,764
		資 本 金	141,690,569
		剰 余 金	△ 80,297,823
計	375,554,192	計	375,554,192

2 業務状況（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

(1) 概況

令和7年度上半期における輸送人員及び乗車料収入につきましては、輸送人員102,889,720人（1日平均562,239人）、乗車料収入（消費税及び地方消費税除く。）180億487万円で、前年度同期に比べて、それぞれ8,217,067人（8.7%）、13億9,575万円（8.4%）の増となっております。

この結果、上半期の経営状況は、当期純損益が約43億円の黒字となっておりますが、引き続き計画的かつ効率的な投資や増収対策に取り組んでまいります。

(2) 事業報告書

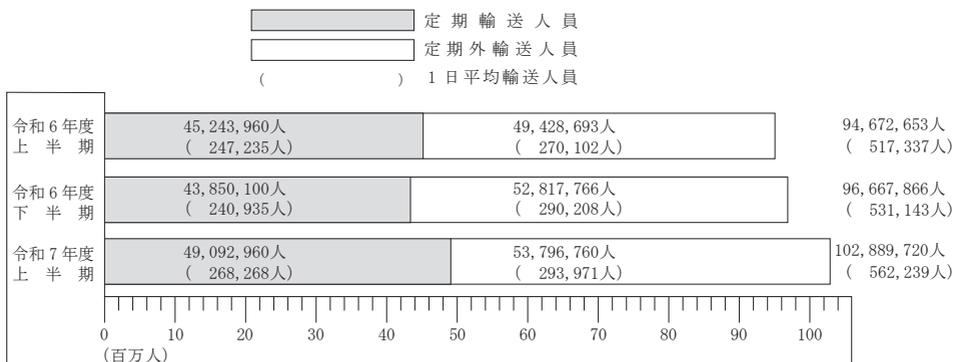
ア 営業区間及び営業キロ

空港線（1号線）	姪浜	～	福岡空港	13.1キロメートル
箱崎線（2号線）	中洲川端	～	貝塚	4.7キロメートル
七隈線（3号線）	橋本	～	博多	13.6キロメートル
	合計			31.4キロメートル

イ 在籍車両数

234両

ウ 輸送人員



(3) 損益計算書（令和7年4月1日から令和7年9月30日まで）

（単位：千円）

区 分	金 額
総 収 益（A）	21,149,377
営 業 収 益	19,377,067
営 業 外 収 益	1,772,310
特 別 利 益	0
総 費 用（B）	16,856,363
営 業 費 用	15,923,587
営 業 外 費 用	932,776
特 別 損 失	0
差引損益(A)－(B)	4,293,014

(4) 貸借対照表（令和7年9月30日現在）

（単位：千円）

資産の部		負債・資本の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固定資産	345,384,654	固定負債	167,135,376
流動資産	14,114,299	流動負債	32,859,459
		繰延収益	93,818,359
		資本金	141,690,569
		剰余金	△ 76,004,810
計	359,498,953	計	359,498,953

(5) 企業債及び一時借入金の現在高（令和7年9月30日現在）

ア 企業債の現在高

（単位：百万円）

令和6年度末 現 在 高	令和7年度上半期		令和7年度 上半期末現在高
	発行額	償還額	
197,908	—	16,530	181,378

イ 一時借入金の現在高

なし